

2025

第40号

みたか 事業団 だより



社会福祉法人

三鷹市社会福祉事業団

夏の収穫祭(三鷹南浦西保育園)

施設長に就任して

令和7年4月1日より三鷹市牟礼老人保健施設はなかいどうの施設長に就任いたしました。老人保健施設は文字通り高齢者が集団で生活をする施設です。通所施設を含めても「共同生活をする」ことが人間にとって如何に大事なことかと痛感しています。特に身体機能や認知機能が低下することから、社会や家庭で孤立しがちな立場の高齢者だからこそ、その意味は一層大きいと思います。かつては家族による介護が一般的でしたが、社会の意識や状況の変化に伴って、今では家族だけで介護を続けることが難しくなっています。そこで、社会全体で高齢者を支える仕組みとして、2000年に介護保険制度が導入されたわけですが、仮にこのような制度・施設がなくて、各家庭が個別に役を担うとすれば、社会全体が被るその負担は膨大なものとなりかねません。「介護」が果たしている負担軽減の役割の大きさを今更のように認識します。現在、世代間の社会保障負担のあり方が議論されていますが、単純な財務負担論にとらわれない文化論・社会倫理的視点が必要だと痛感します。

老人保健施設はなかいどうは、介護保険法の施行に先立って1999年9月に開設されて以来「老人保健分野」において重要な役目を果たしてきました。その理念や存在感は現在も引き継がれ、根付いています。そしてこれからも「高齢者の自立した誇りある日常生活の支援」を合い言葉に社会貢献を目指します。

三鷹市社会福祉事業団という組織は、三鷹市民の安心・安全のよりどころです。高齢者から子ども子育てまで、各部門の特性を活かして連携し、三鷹市の社会福祉に貢献したいものです。



老人保健施設はなかいどう施設長
呉屋 朝幸

昭和49年3月 鹿児島大学医学部卒業
平成3年1月 国立がんセンター病院外呼吸器外科医長
平成11年4月 杏林大学医学部外科(呼吸器・甲状腺)教授
平成18年4月 杏林大学医学部付属病院副院長
平成18年4月 杏林大学医学部付属看護専門学校校長
平成26年3月 杏林大学名誉教授

はなかいどう研修委員会

はなかいどうの研修委員会では、老人保健施設で実施が定められている研修の他に、独自の研修を行っています。利用する方々のニーズに沿う事はもちろんですが、時代と共に変わりつつある介護の現場を先取りするために、職員の能力を高め、前向きに働けるよう努めています。毎回、職員が講師となり課題やテーマを決め、グループワークを多く取り入れた研修を行なっています。職員全員が講師となれることを目標に、今後も取り組みを継続していきます。





体験、展示機器が充実! ~ぜひご利用ください~ 【三鷹市福祉Laboどんぐり山】



三鷹市福祉Laboどんぐり山では、来館された方が楽しく健康について考えられるよう、1階入口に健康チェック機器の体験コーナーを設けています。また、1階及び3階では、見守り機器や最新の介護ベッド等の展示を行っています。

健康チェック機器等

AGEsセンサ ▶ 加齢現象や健康に関わる物質とされているAGEs(最終糖化産物)を測定

らくらくウェルネス ▶ 脳年齢測定や脳ストレス測定、血管年齢測定など複数の機能を搭載

自動血圧計 ▶ 上腕式なので腕を通すだけで簡単測定

手洗いチェッカー ▶ 手洗いチェッカーローションを手についた汚れに見立て、特殊ライト下で光らせる、衛生的手洗いの啓発教材



● 三鷹市福祉Laboどんぐり山／1F・健康チェック機器

展示機器

みまもりほっとライン(象印マホービン株式会社)

クロネコ見守りサービス(ヤマト運輸株式会社)

セコムみまもりホン2(セコム株式会社)

離床支援マルチポジションベッド(フランスベッド株式会社) ▶ 無段階に調節できる背上げ機能により、「寝る」「座る」「立ち上がる」までをサポートする電動ベッド

DFree(DFree株式会社) ▶ 膀胱内の尿の溜まり具合をリアルタイムで“見える化”し、トイレの失敗を防ぐ、排泄予測支援機器



● 三鷹市福祉Laboどんぐり山／1F・見守り機器の展示

自分が認知症と知ったとき 【三鷹市井の頭地域包括支援センター】

三鷹市井の頭地域包括支援センターでは、若年性アルツハイマー型認知症の当事者である藤島岳彦氏をゲストにお迎えして講演会を開催しました。藤島氏は認知症の当事者としてメディアに出演しているほか、講師や当事者として地方公共団体の主催する様々な認知症に関するイベントに参加されるなど、精力的に活動されています。

講演会のテーマは「自分が認知症と知ったとき」でした。藤島氏が実際に認知症と診断されるまでの過程やその後の生活の変化、心情の変化を詳しく語っていただきました。また、講演を聞くだけでなく、認知症に対するより良い支援の在り方を各グループで発表するなど、参加者と共に考え、意見を交換しました。皆様の協力もあり、終始盛り上がりを見せた講演会となりました。



保育園・こども園

三鷹西野保育園 「一緒に遊ぶ楽しさを感じて」

西野保育園では、今年度「わくわく どきどき さわってみよう!」というテーマについて園全体で取り組んでいます。手先や全身を使った遊びを通して、色々な感触を味わっていきけるようにするとともに、異年齢での交流も多く取り入れた保育をしてきました。

乳児クラスでは片栗粉や紙などに触れて遊び、幼児クラスではパラバルーンや積み木遊びなどを通して、異年齢での交流を楽しんできました。普段なかなか遊ぶ様子を見ることができない年長児の真似をしたり、年長児は年下の子に優しく遊び方を教えてあげたりする姿も見られました。異年齢と一緒に遊ぶことで、遊びの広がり方が変わっていくことを感じています。また、パラバルーンでは年長児の様子を見ているうちに「やってみたい」という意欲が増してきたようで、初めて触れるパラバルーンも、お兄さんお姉さんに教えてもらい、一緒に遊ぶことで特別な経験となったように思います。

遊びを通してさまざまな感触を味わうことで、子どもたちの発見も日々多くなっているように感じます。今後も感触遊びや異年齢での交流を意識しながら、子どもたちが楽しく成長できるよう、工夫した保育を行っていきたいと思います。



三鷹ちどりこども園 「カブトムシの成長を通して」

5歳児クラスでは、昨年度の年長さんから引き継いで、カブトムシを育てています。グループで行う日々の当番活動の中に『カブトムシのお世話』があり、5歳児クラスの子どもたちは毎日、霧吹きで水やりを行っていました。

ある日、幼虫の样子がいつもと違うことに気がついた子どもたち。なんと蛹(さなぎ)になる瞬間に立ち会うことができました。幼虫の背中から何かがでてきて、時間をかけてゆっくりと固まっていき、次の日にはカブトムシの形がはっきりとわかるほど、たくましい蛹になりました。

神秘的な瞬間に立ち会った5歳児クラスの子どもたちから、「小さいクラスのお友だちにも見せてあげたい!」との声が挙がり、新聞にしてみんなに伝えることにしました。幼虫から蛹になる過程の写真を順番に貼り、【かぶとむししんぶん】と題して作成しました。完成した新聞は玄関エントランスホールに掲示し、小さいクラスのお友だちはもちろん、送迎の保護者や職員など、園全体で楽しむことができました。

毎日のお世話のおかげで、やがて立派な成虫となり、その様子を間近で観察できた子どもたち。今後も様々な経験を通して、身も心もさらに大きく成長してもらえたらと思います。



保育園・こども園

三鷹駅前保育園 「今日は何があるのかな？」

三鷹駅前保育園には園庭がないため、屋上を活用して水遊びを行っています。タライに水を張って、バシャバシャと鳴る水の音に耳を澄ませたり、手を入れてひんやりした感覚を楽しんだりしています。先日は、2歳児クラスで大きなビニールを頭上に張り、その上から水を入れて遊んでみました。何が始まるんだろうとわくわくしている子や、ドキドキしながら遠くから見ている子と、みんなの表情も様々です。保育者がビニールを揺らすとゆらゆら動く水、太陽が当たってキラキラ光る水面などを、興味深く見ていました。最初は遠くから様子を伺っていた子も、徐々にビニールの近くへやってきて、背伸びをして手を懸命に伸ばして触ってみようとする姿がありました。普段と違う体験に、子どもたちも興奮していた様子です。



このように、日々保育園で楽しく過ごす子どもたちの一瞬一瞬を、保護者の方にタイムリーにお知らせしていけるよう、園では「今日の一枚」としてその日の出来事を写真付きで玄関に掲示しています。お迎えの時には保護者の方に「今日は〇〇したんだよ!」と、写真を指さして一生懸命に伝えようとする子どもの姿や、「今日はどこに行ったのかな?」「〇〇公園!」と楽しそうに親子で会話をする声が聞こえてきます。

これからも、子どもたちの興味を引き出し、わくわくや楽しさをたくさん共有して、「今日の一枚」として保護者の方にもお知らせしていきたいと思います。

三鷹南浦西保育園 「なつのおたのしみ会」

南浦西保育園では、「夏のひとときを大人も子どもも楽しもう!」というテーマで、全園児が楽しめる、夏らしいたくさんの遊びを企画しました。「今からなつのおたのしみ会が始まります」というアナウンスに、子どもたちは「どんな楽しいことが始まるのだろう」と目をキラキラさせていました。

期待に胸を膨らませた子どもたちがホールに足を踏み入れると、そこにはお宝が入った氷水あそび、何十個も膨らませた風船ルーム、エアースイカ割などのコーナーが広がっていて、各自が思う存分に楽しんでいました。ボールを敷き詰めた小型のプー



ルではしゃいだ後は、やかんに果物のイラストを貼って、ジュース屋さんの気分で水分補給。いつもの保育園とはちょっと違う、特別な体験をすることができました。極めつけは、突如現れたヒーローRED! 赤色のスーツを身にまとったヒーローに子どもたちは目が釘付けで、「みんな、楽しんでいるかい?」という呼びかけに「はい!」と元気に応えていました。お迎えの時には、ヒーローRED等身大パネルのフォトスポットで、列をなして撮影する親子の姿など、行事の余韻を楽しむ様子も見られました。今後も子どもたちと職員が一体となって行事を楽しんでいきたいです。

保育園・こども園

三鷹赤とんぼ保育園 「おまつりつたのしいな」

赤とんぼ保育園では、毎年「赤とんぼまつり」を行っています。お神輿の練り歩きからお店屋さんなど、0歳児から5歳児までの子どもたちみんながお祭りに参加しました。長い廊下を使ったお神輿の練り歩きでは、年長クラスの子どもたちが「どんな形にしようかな?」「あれもいれたい!これもいれたい!」と意見を出し合って作り上げたお神輿を誇らしげに担いで歩きました。かっこよく練り歩く姿を見て、他のクラスの子どもたちは目を輝かせていました。お兄さんやお姉さんの掛け声に合わせて手拍子しながら、「わっしょい!わっしょい!」と一緒に声を出し、楽しそうに応援していました。



お店屋さんでは、ヨーヨーすくいやお面屋さんがあり、幼児クラスでは輪投げやワニ叩きゲームなどもあって、お祭りの雰囲気を感じながら遊びを楽しみました。お店屋さんに行く前はそわそわして「はやくやりたいね」「まだはじまらない?」と待ち遠しい様子だった子どもたち。お店屋さんが開店すると、それぞれ行きたいお店を回り、ヨーヨーの色を選んだり、お面の形を選んだり、魔女の仮装をした職員とじゃんけんしたりと、時間があっという間に過ぎるほど、夢中になって遊んでいました。夏のひととき、子どもも職員も一緒になって、園全体で楽しんだ「赤とんぼまつり」でした。



社会福祉法人 三鷹市社会福祉事業団 経営理念

人びとが健やかに安心して暮らせるよう、公正かつ思いやりのあるサービスを提供することにより、地域における信頼を創造します

三鷹市社会福祉事業団施設等一覧

本部事務局

TEL:0422(44)5211
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-12-30

三鷹市牟礼老人保健施設

TEL:0422(44)7700
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-12-30

高齢者在宅福祉部

三鷹市井の頭地域包括支援センター／TEL:0422(44)7400
在宅福祉サービス事業／TEL:0422(43)8804
はなかいどう指定居宅介護支援事業所／TEL:0422(76)8815
ヘルパーステーションはなかいどう／TEL:0422(43)8810
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-12-30

井の頭地域福祉支援センター／TEL:0422(24)7335
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭2-32-30
(井の頭コミュニティ・センター新館1階内)

三鷹市大沢地域包括支援センター／TEL:0422(33)2287
〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-8-8

児童福祉部

児童支援室／TEL:0422(24)8881
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-12-30

三鷹市立母子生活支援施設三鷹寮

三鷹西野保育園／TEL:0422(39)7030
〒181-0016 東京都三鷹市深大寺3-3-10

三鷹ちどりこども園／TEL:0422(72)9220
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀4-12-26

三鷹駅前保育園／TEL:0422(79)5441
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-30-12

三鷹南浦西保育園／TEL:0422(40)7551
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀7-2-1

三鷹赤とんぼ保育園／TEL:0422(40)0600
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼3-9-3

三鷹市福祉Laboどんぐり山

代表／施設管理室／TEL:0422(24)7099
三鷹市在宅医療・介護研究センター／TEL:0422(24)7350
三鷹市介護人材育成センター／TEL:0422(24)7350
三鷹市生活リハビリセンター／TEL:0422(24)7905
〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-8-8

ホームページ <https://www.mitaka.or.jp/>

